中期目標の達成状況に関する評価結果 (4年目終了時評価)

東海国立大学機構 岐阜大学

令和3年6月

大学改革支援 • 学位授与機構

目 次

法人の特徴	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
(法人の達成状	況幸	设告	書	か	ら転	志載	()												
評価結果																			
≪概要≫			-	•	•			•	•			•	•	•	•		•		6
《本文》			•								•			•			•	•	7
≪判定結果一	覧	表	>>																24

法人の特徴

大学の基本的な目標(中期目標前文)

「理念」

岐阜の地は、清流の国と称される豊かな自然に恵まれ、東西文化が接触する地理的条件や歴史的な背景による多様な文化と技術を創造し、伝承してきた。岐阜大学は、岐阜の地のこのような特性を継承するとともに、「人が育つ場所」という風土の中で「学び、究め、貢献する」人材を社会に提供する。そして法人自体も「学び、究め、貢献する」地域にとけこむ大学であるべきことを理念とする。

岐阜大学は、全ての学部・研究科が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根ざした国際化を展開する。さらに、これらの成果を地域還元することなどにより、地域社会の活性化の中核的拠点として、地方創生の一翼を担う。

[目標]

1. 教育

岐阜大学は、学生の主体的な学びを推進し、教育の質保証システムを充実させ、高度な専門職業人の養成と地域単位での Teach for Communities を実現する。理工系の大学院修士課程に、デザイン思考の教育を導入し、リベラルアーツに関する共通教育を重点的に行うことによってイノベーションを支える人材の養成を強く進める。また、国際水準の医学教育開発の推進などに重点的に取り組む。

2. 研究

岐阜大学は、教育の基盤としての質の高い研究活動をそれぞれの分野で着実に実践する。その中でも本学の強みである生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における岐阜大学の独創的な研究領域の先進的研究拠点形成を目指し、その成果を社会に還元する。

3. 国際化

岐阜大学は、地域に根ざした国際化と成果の地域還元によってグローカル化を実現する。多 文化共生型による国際教養コースの設置、日本人学生と留学生の混在型教育の充実、留学生の 組織化や就職支援の充実など、国際化につながる施策を推進する。

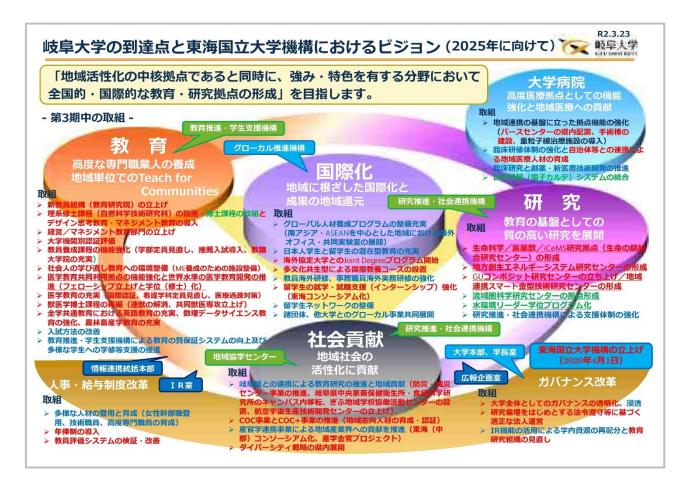
4. 社会貢献

岐阜大学は、地域志向を重視した教育、研究を実践し、国際化を推進することにより地域社会を支える。特に「地」×「知」の拠点(COC)整備事業は、県内外の他大学、自治体、地元企業等との連携を拡大した COC コンソーシアムを形成することにより、地方創生推進事業への取り組みを一層量的に増大、質的に深化させる。また、大学病院を中心とした地域における高度医療拠点機能のさらなる充実、岐阜県と連携した地域社会への貢献事業を推進する。

1. 本学の特徴

本学は教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部の5つの学部、教育学研究科、地域科学研究科、医学系研究科、工学研究科、自然科学技術研究科、共同獣医学研究科、連合農学研究科、連合創薬医療情報研究科の8つの研究科を擁する総合大学である。

第3期中期目標期間においては、2014年に策定した「岐阜大学の将来ビジョン」に掲げた学長のガバナンスのもと、「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野における全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を目指している。



同ビジョンの実現のため、以下の取組や組織再編を行った。

まず、本学の強みである生命科学・環境科学・ものづくり分野の観点から、2017 年度に高度理工系人材の育成を目的とした自然科学技術研究科を設置した。同研究科の特徴は、複数の分野を横断した研究の実施や、デザイン思考教育を実施できる点にある。さらに、2019 年度には鳥取大学との共同獣医学研究科が発足したことにより、獣医学教育の共同教育課程において、学部教育から大学院教育まで一貫した教育を提供できるようになった。この他、工学研究科、自然科学技術研究科及び連合農学研究科の3部局において2019 年度に改組を行い、インド工科大学グワハティ校及びマレーシア国民大学とのジョイントディグリー・プログラムを開設している。また、教職大学院では、2017 年度より全国初となる学校管理職養成コースを開設している。本コースにおいて、新しい学校づくりを牽引し、岐阜県の未来を担うリーダーを養成することで、地域における教育活動への貢献にもつながっている。

2. 教育活動における特徴

教育活動においては、学生の入学から卒業・修了までの一貫した修学支援・学生生活支援体制の強化を目的として設置された教育推進・学生支援機構が中心となり、全学的教育、教養教育

の推進及び学生への支援に関する企画・運営を行っている点に特色がある。2018 年度には English Center を開設し、英語のカリキュラムや評価基準の統一を図るなど、積極的な取組を 行っている。特に全学部生が履修する全学共通教育の中には、学生自身をピア・サポーターに 養成するための科目もあり、授業科目へのアクティブ・ラーニング導入も積極的に行っている。

3. 研究活動における特徴

研究活動については、研究の入口から出口まで一貫した研究支援を行うために設置した研究推進・社会連携機構が全学的な研究の支援を行っている。本機構のもとに「生命の鎖統合研究センター」をはじめとして、「地方創生エネルギーシステム研究センター」、「Gu コンポジット研究センター」、「地域連携スマート金型技術研究センター」を設置し、本学の強みである生命科学・環境科学・ものづくり分野において重点的な研究体制の整備を行っている。さらに、リサーチ・アドミニストレーターによって構成されるリエゾンファンクションや、外部有識者を中心としたアドバイザリーボードを配置し、研究へのマネジメントを強化している。

また、産学連携に関する広報活動等の拡充を通じて共同研究を推進し、「組織」対「組織」の共同研究講座を設置・運営している。これらの取組により、特に民間企業との共同研究が増加しており、研究の社会への還元を実現している。

さらに、「流域圏科学研究センター」では、特に森・水・物質(病原微生物も含む)循環に着目した流域環境、及び地球温暖化に関連した森林 CO₂ 吸収に関する先駆的・国際的水準での研究の展開を通して、内外に評価と影響の高い研究成果を発信している。

4. 国際化推進における特徴

国際化の推進においては、グローカル推進機構(2019 年度にグローカル推進本部より改組)が中心となっている。本学では2019 年度よりインド工科大学グワハティ校及びマレーシア国民大学とのジョイントディグリー・プログラムを設けており、学生は2大学の連名で単一の学位を取得することができる。

さらに、自然科学技術研究科の英語による修士課程プログラム「AGP (Advanced Global Program)」や自然科学・工学分野で役立つ英語を学ぶことができるアルバータ大学 EST (English for Science and Technology) プログラムなど、実践的な英語習得のプログラムも充実している。地域科学部では、「国際教養コース」の設置により日本人学生と外国人留学生の混在型教育を可能としている。これらに加えて、流域圏科学研究センターでは工学部と応用生物科学部と連携協力し、留学生と日本人学生がともに学ぶ「岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム」を 2009 年度より実施し、修士と博士の両課程において、国際環境リーダーを多数育成している。

5. 社会貢献活動における特徴

社会貢献活動については、地域協学センターによる COC+事業において、次世代地域リーダー育成プログラムを実践している。本プログラムにおいて、第3期中期目標期間には、従来の「地域リーダーコース」に加え「産業リーダーコース」や「教育リーダーコース」を設置し、地域産業の担い手としてリーダーシップを発揮し活躍できる人材や地域の教育現場で活躍できる人材の育成に注力している。学外での活動として、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館等と連携して、岐阜県内の高校生及び高等専門学校生向けに最先端の宇宙教育を提供する「宇宙工学講座」を開講するなど高大連携事業も展開している。さらに、大学関係者や学生だけでなく、多様な参加者を募って地域や社会の未来について語り合う対話の場「ぎふフューチャーセンター」を開催し、地域の抱える課題の解決を図っている。

さらに、「岐阜県中央家畜保健衛生所」や「岐阜県食品科学研究所」、「スマート金型開発拠点」、「飛騨牛繁殖研修センター」、「地域環境変動適応研究センター」など、岐阜県を中心として地域との連携による研究施設の設置が進んでおり、実践的な教育・研究環境の提供を可能にしている。2019年度は上記施設に加えて、「航空宇宙生産技術開発センター」が開設し、岐阜県の成長分野における一層の取組の強化が見込まれている。

「個性の伸長に向けた取組(★)]

- 医学教育開発研究センターでは、国際標準を越える優れた医療者教育を推進できる指導者を育成する全国規模の「フェローシッププログラム」及び「MEDC アソシエイト認定プログラム」を 2016 年度より本格稼働し、学外の医療教育者へも教育研究の機会を提供している。「フェローシッププログラム」においては、遠隔教育 (e-Learning) とワークショップを組み合わせたコースを実施し、医療教育者が学びやすい環境を提供している。(関連する中期計画1-1-1-2)
- 本学の強みである生命科学・環境科学・ものづくり分野の観点から設置された自然科学技術研究科では、2017 年度より特色ある教育内容としてデザイン思考共通教育科目を導入している。本科目は内閣府の「第5期科学技術基本計画」が求める「いかなる変化や新しい課題に直面しても、柔軟かつ的確に対応できる基盤的な力」の育成を目的としており、課題解決に向けたグループワークを通して、学生は産業界を始めとする様々な業界で活躍するために必要な創造力を身につけることができる。(関連する中期計画1-1-1-4)
- インフラマネジメント技術研究センターでは、岐阜県と協働で「社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座」を実施している。本講座は 2016 年度より、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラム「職業実践力育成プログラム(BP)」として文部科学大臣に認定されている。また、この講座を起点としてインフラマネジメント技術研究センター・山口大学・長崎大学・愛媛大学・長岡技術科学大学・舞鶴工業高等専門学校が組織した「社会資本の整備及び維持管理等に係る人材育成コンソーシアム」の取組が国土交通省等主催の第1回インフラメンテナンス大賞において、文部科学省特別賞を受賞している。(関連する中期計画1-1-1-4)
- 連合創薬医療情報研究科においては、創薬に関する一連の流れを学び体験できる「創薬人材育成教育プログラム」を開講している。本プログラムは、以前より協定の締結や公開講座の開催等を通して連携を強めてきた岐阜市民病院や民間企業等の協力により実現したもので、他学部・他大学等の教員・学生も聴講可能となっている。(関連する中期計画 1-2-2-1)
- 「ぎふ地域学校協働活動センター」では、岐阜県と連携して学校が抱える課題解決を目的に、「地域学校協働活動推進員」や「地域コーディネーター」を育成する研修の実施、学習支援・体験活動支援ボランティアの育成を担っている。同じく教員養成及び現職教員の研修に寄与することを目的とした教育学部附属「学習協創開発研究センター」では、2020年度のプログラミング教育必修化を見据えて、プログラミング教育の担い手を育成するためのカリキュラムの開発が実現し、教育学部において実際に検証を行っている。(関連する中期計画3-1-2-2)
- 岐阜県と協働して防災・減災にかかる実践的シンクタンク機能を担う「清流の国ぎふ 防 災・減災センター」では、2015年度の開所以来、毎年度「清流の国ぎふ防災リーダー育成講 座」を開催している。本講座の受講者の多くが防災士の資格を取得しており、岐阜県の地域 防災力の強化に大きく貢献している。(関連する中期計画3-1-3-2)

「戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)〕

- 〇 ジョイントディグリー・プログラム等の実施を通じた国際的な教育の質保証に向けた取り組み、岐阜大学基金からの支援額の拡充による日本人学生の派遣の増加等により、岐阜大学の実質的な国際化を実現する。(関連する中期計画1-3-2-1、4-1-1-1、4-1-1-3)
- 〇 学内に散在する医学、獣医学、薬学及び生命科学分野の研究者を集約するとともに、研究 戦略を構築するリエゾンファンクションを設置することで、糖鎖科学研究を基軸とした生命 科学研究の推進を図る。(関連する中期計画 2-2-1-1、 2-2-2-1)
- 山地から平野に広がる多様な自然環境システムと人間活動の相互作用系である流域圏を対象として、山地森林の炭素・水循環機構の解明、森林・河川・農地の管理技術の開発、流域情報の統合的分析を基軸とした新たな環境科学『流域圏保全学』を推進する我が国の唯一の拠点として、実践的環境科学の発展を担う。(関連する中期計画2-2-1-2)
- 「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、多角的な教育力及び研究力により地域の課題解決に取り組み、地域の活性化に貢献するため、地域・自治体から広く持ち込まれた課題に対し、対話を通じて解決に向けた討議や支援を行う「フューチャーセンター」を運用するとともに、地域志向人材の育成プログラムを実施するなど、「地域活性化の中核的拠点大学」としての機能強化を図る。(関連する中期計画3-1-1-1、3-1-2-1)

評価結果

≪概要≫

第3期中期目標期間の教育研究の状況(4年目終了時)について、法人の特徴等を踏まえ評価を 行った結果、東海国立大学機構岐阜大学の中期目標(大項目、中項目及び小項目)の達成状況の概 要は、以下のとおりである。

<判定結果の概要>

中	期目標(大項目)		中其	期目標(小項目)	判定の分	
	中期目標(中項目)	判定	【 5 】 特筆すべ き実績を 上げて いる	【 4 】 優れた実 績を上げ ている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗してい るとはい えない	【 1 】 進捗して いない
I	教育に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる					
	教育内容及び教育の成果等に関す 1 る目標	【 2 】 おおむね順調 に進んでいる			3	1	
	2 教育の実施体制等に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる			2		
	3 学生への支援に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる		1	2		
	4 入学者選抜に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる			2		
п	研究に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる					
	研究水準及び研究の成果等に関す 1 る目標	【 3 】 順調に進 んでいる			1		
	2 研究実施体制等に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる			2		
ш	社会との連携や社会貢献及び地域を志向 した教育・研究に関する目標	【 3 】 順調に進 んでいる					
		なし		1	3		
IV	その他の目標	【 4 】 計画以上の進 捗状況にある					
	1 グローバル化に関する目標	【 4 】 計画以上の進 捗状況にある	*) ~ 88 J- '	1			7 711

[※] 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

≪本文≫

I 教育に関する目標(大項目1)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、3項目が「順調に進んでいる」、1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目 1-1)

【評価結果】中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由)「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目) 4項目のうち、3項目が「進捗している」、1項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定判断理由					
地域の教育を支える人	[2]	中期目標の達	○ 中期計画の判定において			
材、地域及び世界に貢献で		成に向けて十分	「中期計画を十分に実施して			
きる人材、豊かな国際感覚		に進捗している	いるとはいえない」がある。			
を備えた人材、及び生命科		とはいえない	○ また、「小学校教員の占			
学分野、環境科学分野、も			有率の状況」に改善を要する			
のづくり分野における人材			点が指摘されたため、小項目			
を養成する。			の達成が十分に見込まれな			
			V,			
	≪特記事	項≫				
	(特色あ	る点)				
	〇 教職:	大学院での学校管理	里職の養成			
	教職大	学院では、将来の学	学校管理職としての経営力量の形			
	成を図るため、岐阜県教育委員会と共同で「スクールリーダ					
	ー養成研修(学校管理職養成講習)」を平成30年度から実					
	施している。令和元年度までの2年間で549名が参加してお					
	り、岐阜	県下の学校管理職績	彰成モデルとして、学校管理職を			

担う人材の育成に貢献している。(中期計画 1-1-1-1)

○ 共同獣医学研究科の設置

令和元年度に共同獣医学研究科(博士課程)を鳥取大学と 共同で設置し、これまで学部教育を共同で行ってきた両大学 が大学院教育も共同で行うことにより、学部から大学院まで の一貫教育が可能となっている。(中期計画 1-1-1-2)

○ MEDC フェローシップ・プログラムの実施

医学教育開発研究センターで実施している、全国の医療教育者が医療者を育成する方法を学ぶことができるプログラム「MEDC フェローシップ」では、オンラインコースやウェブミーティングを導入して、学びやすい環境を提供し、平成28年度から令和元年度までに累計233名がプログラムに参加している。(中期計画1-1-1-2)

(改善を要する点)

○ 小学校教員の占有率の状況

教育学部卒業生の岐阜県における小学校教員の占有率について、平成28年度28.8%から令和元年度末時点で20.7%となっており、目標値40%の達成が見込まれない。(中期計画1-1-1-1)

小項目 1-1-2		判定	判断理由
教学 IR の結果に基づい	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
て、教育に関する3つの方		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
針(アドミッション・ポリ		している	以上であり、かつ中期計画の
シー、カリキュラム・ポリ			実施により、小項目の達成が
シー、ディプロマ・ポリシ			見込まれる。
一)を見直すとともに、そ	≪特記事	項≫	
れらを基にした教育を実践	該当な	L	
し、教育の質を保証する。			

小項目 1-1-3		判定	判断理由	
「岐阜大学の国際化ポリ	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて	
シーとビジョン」に基づ		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」	
き、全学共通教育における		している	以上であり、かつ中期計画の	
英語の教育内容や教育方法			実施により、小項目の達成が	
を充実する。			見込まれる。	
	≪特記事	項≫		
	(特色あ	る点)		
	○ Engl	ish Centerの設置		
	平成 30	年度に全学共通教	育の英語を担当する専任教員に	
	よって組	織された English (Center を開設し、授業の質の向	
	上や教材	の開発を通して、よ	にり実践に即した英語教育の展開	
	を図って	いる。特に、英語学	学習支援 English Xtra では、参	
	加者(学	生、教職員)は教員	員と1対1で英会話の練習や留	
	学、TOEI	C、TOEFL に関する	アドバイス等を受けることがで	
	き、開始	して2年間で延べ1	1,353名が参加している。また、	
	英語のみ	を用いてグループ活	5動やプレゼンテーション等を行	
	うイング	リッシュ・トレーニ	ニング・キャンプを実施し、留学	
	に対する	意識の醸成を図って	ている。(中期計画 1-1-3-1)	
	〇 4技	能別カリキュラムに	こよる英語教育	
	「全学	共通教育における芽	英語運用能力の基準と目標」に基	
	づいて、	シラバスの統一を行	テい、平成 30 年度に全学部生が	
	統一した	カリキュラムを受講	堵できるよう体制を整え、4技能	
	_		Reading・Writing) カリキュラ	
	ムによる		ている。(中期計画 1-1-3-1) -	
小項目 1-1-4		判定	判断理由	
岐阜大学が目指す3つの	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて	
基盤的能力(進める力、伝		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」	
える力、考える力)を高め		している	以上であり、かつ中期計画の	
るため、主体的な学びを推			実施により、小項目の達成が	
進する。			見込まれる。	
	≪特記事項≫			
	該当な	L		

(2) 教育の実施体制等に関する目標(中項目 1-2)

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、 2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1		判定	判断理由		
学部・研究科の優れた教	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて		
育改善の取組を共有するこ		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」		
とにより、教育の質保証シ		している	以上であり、かつ中期計画の		
ステムを改善・向上させ			実施により、小項目の達成が		
る。			見込まれる。		
	≪特記事	項》			
	該当な	L			
小項目 1-2-2		判定	判断理由		
社会人の学び直しを支援	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて		
するため、教育環境を整備		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」		
する。		している	以上であり、かつ中期計画の		
			実施により、小項目の達成が		
			見込まれる。		
	≪特記事	項≫			
	(特色あ	る点)			
	〇 イン	フラミュージアムに	こよる学び直し支援		
	インフ	ラに関わる人材養成	戈を加速させるため、内閣府の戦		
	略的イノ	ベーション創造プロ	ュグラム(SIP)の助成を受け、		
	インフラ	ミュージアムを平成	対29年度に設置している。この		
	施設は、	維持管理技術者を育	f成するためにプレストレストコ		
	ンクリー	ト (PC) 橋、鋼橋、	トンネル、盛土の建設過程が学		
	べる構造物モデルを構築し、社会基盤メンテナンスエキスパ				
	ート (ME) 養成講座、大学院インフラマネジメントリーダー				
	育成プログラムにおける維持管理技術者の育成や SIP のイン				
			ジメント技術で開発されている点		
	検技術の	検証に活用し、令和	ロ元年度までの3年間で2,017名		
	の見学者	が訪れている。(中	□期計画 1-2-2-1)		

○ 社会基盤メンテナンスエキスパートの養成

ME 養成講座は、社会資本(特に道路)の維持管理技術習得のため、「アセットマネジメント基礎科目」、「社会基盤設計実務演習」、「点検・維持管理実習」で構成されている。また、実務に即した講義の実現と最新技術の講義への活用を図るために、現職の大学教員だけでなく、岐阜県、国土交通省、土木研究所及び関連企業をはじめとした全国の一線級の講師により、系統立った多彩な講義を展開している。この講座は平成25年度より岐阜大学大学院の履修証明プログラムとなり、平成28年度には文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)に認定されるなど、社会人の学び直しの場となっている。(中期計画1-2-2-1)

(3) 学生への支援に関する目標(中項目 1-3)

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「学生への支援に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1		判定	判断理由
多様な学生への学修支	[4]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
援、生活支援、就職支援な		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
どを推進する。		し、優れた実績	以上であり、かつ中期計画の
		を上げている	実施により、小項目の達成が
			見込まれる。
			○ また、特記事項を判断要
			素とし、総合的に判断した結
			果、「サテライトキャンパス
			での早朝クラスの実施」が優
			れた点として認められるなど
			「優れた実績」が認められ
			る。

≪特記事項≫

(優れた点)

○ サテライトキャンパスでの早朝クラスの実施 JR 岐阜駅近くに位置するサテライトキャンパスにおいて 「早朝クラス」を実施し、学生の時間の効率的運用、大学の 学生以外との交流の場の提供に貢献している。受講者数は開 始初年度の平成 28 年度 105 名から、平成 29 年度は 202 名、 平成 30 年度は 149 名、令和元年度は 250 名となっている。 (中期計画 1-3-1-1)

(特色ある点)

○ ピア・サポーターを通じた学生支援の拡充

学生支援を拡充するため、ピア・サポーター養成のための全学共通科目を開講し、単位取得者に「岐阜大学ピア・サポーター」の資格を付与し、平成28年度から令和元年度に122名の学生を認定している。また、平成30年度からはピア・サポートサークルも組織され、学生も参画した学生支援を実施している。(中期計画1-3-1-1)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生への対面授業の機会を確保するために、地域の交通機関に働きかけや資金を投入して、バスの増便による学生の移動を支援している。また、リモート教育に関する取組として、e-learning 講義の補助などのために学生を雇用し、e-learning 教育補助・教材作成支援を行い、教育の質の維持向上を図っている。

小項目 1-3-2		判定	判断理由
勉学の奨励やグローバル	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
人材を育成するための奨学		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
金制度等を充実させる。		している	以上であり、かつ中期計画の
			実施により、小項目の達成が
			見込まれる。
	≪特記事	項》	
	該当な	l	

小項目 1-3-3		判定	判断理由			
学部を超えた交流の場と	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて			
して、アカデミック・コモ		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」			
ンズを充実し、積極的に活		している	以上であり、かつ中期計画の			
用できる環境を整備する。			実施により、小項目の達成が			
			見込まれる。			
	≪特記事項≫					
	(特色ある点)					
	〇 アカ	デミック・コモンス	ぐの設置			
	能動的	な学びを展開できる	ら場としてアカデミック・コモン			
	ズを設置	し、このスペースを	注活用し、SA、TA が学習支援イ			
	ベントの	開催や各種相談への	対応、自主ゼミ等の活動の支援			
	(平成 28 年度から令和元年度で累計 77 件) に主体的に取り					
	組んでおり、学生の意見を反映した運営体制を確立してい					
	る。 (中)	期計画 1-3-3-1)				

(4) 入学者選抜に関する目標(中項目 1-4)

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1		判定	判断理由
ミッションの再定義及び	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
岐阜大学の国際化ポリシー		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
とビジョンに基づいてアド		している	以上であり、かつ中期計画の
ミッション・ポリシーを見			実施により、小項目の達成が
直し、入学者選抜の方法を			見込まれる。
改善する。	≪特記事	項≫	
	該当な	l	

小項目 1-4-2		判定	判断理由
地域の教育の拠点として	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
の役割を果たすため、入学		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
者選抜の方法を改善する。		している	以上であり、かつ中期計画の
			実施により、小項目の達成が
			見込まれる。
	≪特記事	項≫	
	該当な	l	

Ⅱ 研究に関する目標(大項目2)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目 2-1)

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1		判定	判断理由			
岐阜大学の強みである生	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて			
命科学分野、環境科学分		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」			
野、ものづくり分野におい		している	以上であり、かつ中期計画の			
て独創的で先進的な学術研			実施により、小項目の達成が			
究を推進し、持続可能な社			見込まれる。			
会の創生に貢献できる成果	≪特記事	項≫				
を社会に還元する。	(優れた	点)				
	〇 生命	の鎖統合研究センタ	アーの設置			
	生命の鎖統合研究センター (G-CHAIN) の設置により、生					
	命科学分野において独創的で先進的な学術研究を推進してい					
	る。同セ	ンターによる外部資	・金採択金額は増加しており、公			
	表論文数	も平成 29 年度 96 執	みから令和元年度は175報となり			
	82%増加	している。また、学	全会参加、英文校閲及び論文掲載			
	費用の支	援を実施し、5報の)論文について、高インパクトフ			
	アクター	ジャーナル(Nature	Communications 及び Science)			
	に掲載されている。 (中期計画 2-1-1-1)					
	(特色ある点)					
	〇 地方:	創生エネルギーシス	ステム研究センターへの組織改編			
	平成 30	年度に次世代エネ	ルギー研究センターを地方創生			

エネルギーシステム研究センターへ組織改編し、岐阜県や八百津町、各企業と連携しながら中山間地域での地産地消型地域エネルギーシステム「ぎふモデル」を構築・実証し、AI などを活用して水素技術などとの組み合わせによる最適エネルギーマネジメントシステムの構築を目指している。なお、これらの取組は第29回地球環境大賞の文部科学大臣賞を受賞している。(中期計画2-1-1-3)

(2) 研究実施体制等に関する目標(中項目 2-2)

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、 2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1		判定	判断理由				
生命科学分野、環境科学	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて				
分野、ものづくり分野にお		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」				
ける研究を推進するために		している	以上であり、かつ中期計画の				
研究拠点を設置するととも			実施により、小項目の達成が				
に、拠点に対する学内の支			見込まれる。				
援体制を整備する。	≪特記事項≫						
	(特色ある点)						
	○ スマート金型開発拠点の地域産業への貢献						
	文部科学省の地域科学技術実証拠点整備事業(平成 28 年						
	度) によ	度) による支援を受け、平成30年度にスマート金型開発拠					

度)による又接を受け、平成30年度にスマート金型開発拠点を整備している。次世代金型技術研究センター(平成28年度設置)を前身とした本拠点では、岐阜大学と企業が協働して、IoT及びビッグデータ解析の活用により、金型生産における不良予兆を実現し、不良品を減らすシステム「スマート生産システム」を事業化し、地域製造業の競争力を飛躍的に向上させることを目的としている。共同研究講座制度の活用により、企業の研究員も大学内の施設設備を使用して大学との共同研究を行うことが可能であり、「組織対組織」の産学連携につながっている。拠点を整備し、スマート金型に関

する共同研究を推進した結果、実施件数が平成28年度7件から令和元年度の10件と1.4倍増加している。(中期計画

2-2-1-3)

小項目 2-2-2		判定	判断理由
教育の基盤となる質の高	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて
い研究を着実に進展させる		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」
ため、全学的な研究支援体		している	以上であり、かつ中期計画の
制を整備する。			実施により、小項目の達成が
			見込まれる。
	≪特記事	項》	
	該当な	l	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由)「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に 係る中期目標(小項目)4項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、 3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

2. 中朔日保り足以入ル						
小項目 3-1-1		判定	判断理由			
「地域にとけこむ大学」	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて			
として、地域を志向した教		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」			
育・研究を全学的に実践		している	以上であり、かつ中期計画の			
し、地域と協働して地域志			実施により、小項目の達成が			
向人材を育成する。			見込まれる。			
	≪特記事	項≫				
	(優れた	点)				
	〇 次世	代地域リーダー育成	対プログラムの拡充			
	平成 27	年度に地域志向人	材を育成するために開始した次			
	世代地域	リーダー育成プロク	ブラムは、地域課題の解決を目的			
	とした「地域リーダーコース」のみであったが、平成 28 年					
	度に地域	産業の担い手を目指	fす「産業リーダーコース」、 令			
	和元年度に地域の教育現場での活躍を目的とした「教育リー					
	ダーコース (対象:教育学部生)」を新たに設け、広い分野					
	で地域に貢献できる人材の育成を行っている。それにより、					
	岐阜県内の就職率が、次世代地域リーダー育成プログラム修					
	了生では	約 65%、ぎふ次世位	弋地域リーダー称号授与者では			
	約 68%と	なっており、若者の	の地元定着・地元就職に寄与し			
	ている。	その結果、地(知)	の拠点整備事業(大学 COC 事			
	業) の平	成 28 年度評価にお	いてS評価を、また、平成29年			
	度実施さ	れた地(知)の拠点	京大学による地方創生推進事業			
	(COC+事	業)の中間評価にお	おいてもS評価を受けている。			
	(中期計	画 3-1-1-1)				
	(特色あ	る点)				

○ 地域戦略ビジョンの実践

平成28年度に策定した「地域戦略ビジョン」の取組の一

環として、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ(課題)について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「ぎふフューチャーセンター」を毎年度開催しており、第3期中期目標期間中は、地域住民、自治体職員、大学教職員、学生等、延べ1,159名が参加している。平成30年度に開催した「地域・生徒が主役の先生の働き方改革」をテーマとした回では、中学生、教員、岐阜大学生、地域住民等が提案したアイディアが、実際に岐阜市教員の働き方改革の具体的施策に反映されている。(中期計画3-1-1-2)

小項目 3-1-2	判定判断理由					
地域と大学が連携して大	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて			
学の資源を活用すること		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」			
で、地域社会が抱える超高		している	以上であり、かつ中期計画の			
齢社会等の課題解決に貢献			実施により、小項目の達成が			
する。			見込まれる。			
	≪特記事	項≫				
	(特色あ	る点)				

○ ぎふ地域学校協働活動センターの設置

令和元年度に岐阜県と共同して、地域と学校が連携・協働する活動を促進し、子どもたちの成長を地域全体で支えるとともに、活動を通じて地域の活性化を図ることを目的に「ぎふ地域学校協働活動センター」を設置している。主な取組として、地域と学校の橋渡し役となる推進員を育成する地域学校協働活動推進員等育成研修を実施し、県内の各自治体から推薦された92名が参加している。また、自治体が実施している無料の学習支援事業を後押しするため、本センターが県内の学生ボランティアを講師として山県市などに派遣している。(中期計画 3-1-2-1)

小項目 3-1-3		判定	判断理由			
岐阜県と連携し、地域課	[4]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて			
題に密着した実践的な教育		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」			
研究を行うことにより地域		し、優れた実績	以上であり、かつ中期計画の			
社会に貢献する。		を上げている	実施により、小項目の達成が			
			見込まれる。			
			○ また、特記事項を判断要			
			素とし、総合的に判断した結			
			果、「防災リーダーの育成」			
			が優れた点として認められる			
			など「優れた実績」が認めら			
			れる。			
	≪特記事	項≫				
	(優れた	点)				
	○ 実践	的な獣医師教育の推	É 進			
	平成 29 年度に岐阜県中央家畜保健衛生所に応用生物科学					
	部附属家畜衛生地域連携教育研究センター(GeFAH)を設置					
	し、応用生物科学部共同獣医学科の実習で利用し、実践的な					
	教育を行っている。また、国または地方自治体の職場で公務					
	員獣医師の仕事を体験する「公衆・家畜衛生インターンシッ					
	プ実習」を共同獣医学科5年次の必修科目とし、公衆衛生及					
	び家畜衛	生に関する知識・技	技術を学んでいる。このような教			
	育体制に	より、応用生物科学	学部における獣医師国家試験の新			
	卒合格率	は平成 29 年度から	3年連続で100%を維持してい			
	る。(中	期計画 3-1-3-1)				
	〇 防災	リーダーの育成				
	岐阜県と共同して平成27年度に設置した「清流の国ぎふ					
	防災・減災センター」の取組として、「清流の国ぎふ防災リ					
	ーダー育成講座」を毎年度開講し、平成28年度から令和元					
	年度までで、講座受講者の86.4%が防災士の資格を取得し					
	ており防	災リーダーの育成に	こつながっている。(中期計画			
	3-1-3-2)					

小項目 3-1-4		判定	判断理由		
産官学連携の推進によ	[3]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて		
り、地域産業界の発展に貢		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」		
献する。		している	以上であり、かつ中期計画の		
			実施により、小項目の達成が		
			見込まれる。		
	≪特記事	項≫			
	(特色あ	る点)			
	○ 産学連携による共同研究の推進				
	地域産業界のニーズを把握するため、産官学連携推進本部				
	を中心に、毎年度コーディネーターが企業を訪問する取組を				
	実施している。学長をはじめ大学の執行部が産業活動の現場				
	を訪れ、地域を支える産業の実情を把握して社会貢献に役立				
	てる「産学ツーリズム」も継続しており、共同研究や産官学				
	連携に生かしている。また、産官学連携推進本部ウェブサイ				
	ト「産学連携ナビ」による情報発信により、大学の技術シー				
	ズと企業ニーズとのマッチングの機会を提供し、共同研究契				
	約件数も平成27年度の287件から令和元年度の423件へと				
	増加して	いる。(中期計画 3	-1-4-1)		

Ⅳ その他の目標(大項目4)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由)「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が 「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標(中項目 4-1)

【評価結果】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由)「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、 当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に 判断した。

小項目 4-1-1		判定	判断理由					
「岐阜大学の国際化ポリ	[4]	中期目標の達	○ 中期計画の判定がすべて					
シーとビジョン」に基づ		成に向けて進捗	「中期計画を実施している」					
き、国際化につながる施策		し、優れた実績	以上であり、かつ中期計画の					
を推進するとともに、その		を上げている	実施により、小項目の達成が					
成果を地域に還元し、地域			見込まれる。					
社会のグローカル化に貢献			○ また、特記事項を判断要					
する。			素とし、総合的に判断した結					
			果、「グローカル推進機構を					
			中心とした国際化の推進」が					
			優れた点として認められるな					
			ど「優れた実績」が認められ					
			る。					
	≪特記事	項≫						
	(優れた	点)						
	〇 留学	生の国内就職の支援	호					
	愛知及	び岐阜県下の大学、	地方公共団体、経済団体及び企					
	業支援団体が連携し、留学生の国内就職支援を行うことを目							
	的とした「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」に参画し、							
	国内での	就職を希望する留常	生生を対象にワークショップの開					
	催を行っ	ている。特に留学生	三への就職支援策として、県内企					

業での雇用拡大に向けて、企業と留学生の相互理解を促進するために「留学生インターンシップ in GIFU」等を実施している。これらの取組により、国内で就職する留学生数は31.6%増加している。(中期計画 4-1-1-2)

○ グローカル推進機構を中心とした国際化の推進 第3期中期目標期間中に、スプリングプログラム、カナダ・アルバータ大学 ESL (English as a Second Language) プログラム、EST (English for Science and Technology) プログラムを開始し、留学の機会を増やしている。また、学生の留学を促すため、グローカル推進機構を中心に、海外留学フェア、留学報告会、意見交換会を実施するとともに、留学経験者のネットワーク強化等を実施し、日本人学生の海外留学生数及び派遣学生数の目標値の500名を上回る850名を派遣することで、大学の国際化を推進している。(中期計画4-1-1-3)

(特色ある点)

○ ジョイントディグリーの展開

「地域に根差した国際化と成果の地域還元」の実現に向け、令和元年度にインド工科大学及びマレーシア国民大学と修士課程と博士課程を含め4つのジョイントディグリー・プログラムを開始している。プログラム1年目となる令和元年度は、16名の入学定員に対し、14名(自然科学技術研究科8名、連合農学研究科2名、工学研究科4名)が入学している。(中期計画4-1-1-1)

≪判定結果一覧表≫

中期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期目標(小項目)	半	川定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値
「項目1 教育に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.05 うち現況分析結果加算点 0.03
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	[2]	おおむね 順調に進 んでいる	2.75
小項目1-1-1 地域の教育を支える人材、地域及び世界に貢献できる人材、豊かな国際感覚を備えた人材、及び生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における人材を養成する。	[2]	十分に進 捗している とはいえな い	2.25
中期計画1-1-1-1 【1】地域の教育を支える人材を養成するため、理論と実践の往還型学修(ACTプラン)の教育効果をさらに高めることにより、ミッションの再定義に記載した教育学部卒業生の岐阜県における小学校教員の占有率を40%確保する。教職大学院においては教員就職率100%を目指すとともに、岐阜県教育委員会と連携した学校管理職養成コースを平成29年度までに設置する。	[1]	中期計画を十分に実施しているとは言えない	
中期計画1-1-1-2(★) 【2】医学分野においては、地域及び世界に貢献できる人材を養成するため、医療者教育フェローシップ・プログラムの構築など教育関係共同利用拠点としての取組を推進し、第3期中期目標期間中に同プログラムへの参加者数を120名以上確保する。獣医学分野においては、鳥取大学との連携による共同獣医教育プログラムを令和元年度に検証し改善する。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-1-1-3 【3】豊かな国際感覚を備えた人材を養成するため、平成28年度に地域科学部に国際教養コースを設置し、学外研修や多文化共生型の教育プログラムを実施する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画1-1-1-4(★) 【4】生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における人材を養成するため、理工系修士課程にリベラルアーツを含むデザイン思考の共通教育科目を平成29年度までに2科目以上開講するとともに、インフラマネジメントに関する教育プログラムを開講し、イノベーションを支える教育プログラムを実施する。	[2]	中期計画を実施している	
小項目1-1-2 教学IRの結果に基づいて、教育に関する3つの方針(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリ シー)を見直すとともに、それらを基にした教育を実践し、教育の質を保証する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-1-2-1 【5】教育の質を保証するため、アウトカム検証、教学IRの結果に基づいて教育に関する3つの方針(アドミッション・ボリシー、カリキュラム・ポリシー、ディブロマ・ポリシー)を平成29年度までに見直すとともに、シラバス、教育方法、成績評価などに関する教学マネジメントの強化と新たなポリシーに基づく教育を平成30年度までに実施する。	[2]	中期計画を実施している	
小項目1-1-3 「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」に基づき、全学共通教育における英語の教育内容や教育方法を充実する。	[3]	進捗している	3.00
中期計画1-1-3-1 【6】学士課程教育のグローバル化を推進するため、全学共通教育において各学部の人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を平成28年度に定め、それに基づき組織化された教員集団による英語教育を実施する。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目1-1-4 岐阜大学が目指す3つの基盤的能力(進める力、伝える力、考える力)を高めるため、主体的な学びを推進する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-1-4-1 【7】学生の主体的な学修活動を推進するため、学生参加、共同学修などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を平成30年度までに各学部で4科目以上開講する。	[2]	中期計画を実施している	

中期目標(中項目) 中期目標(小項目)		定	下位の中期目標 中期計画におけ 各判定の平均
中期計画			
項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.00
小項目1-2-1 学部・研究科の優れた教育改善の取組を共有することにより、教育の質保証システムを改善・向上させる。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-2-1-1 【8】教育推進・学生支援機構は学部・研究科と連携して学生による授業評価、教員のリフレクション、ナンバリング・システムの導入、FD活動等に基づく全学的な点検・評価・改善の実施体制(PDCAサイクル)を確立する。	[2]	中期計画を実施している	
 小項目1-2-2 社会人の学び直しを支援するため、教育環境を整備する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-2-2-1(★) 【9】社会人のニーズに応じた教育プログラムを提供するとともに、公開講座、夜間・土日の開講、ICTの活用など、社会人が学びやすい受講環境を整備する。	[2]	中期計画を実施している	
項目1-3 学生への支援に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.33
小項目1-3-1 多様な学生への学修支援、生活支援、就職支援などを推進する。	[4]	優れた実 績を上げ ている	2.50
中期計画1-3-1-1 【10】教育推進・学生支援機構は学部・研究科と連携してそれぞれ実施している学生への学修支援、生活支援などの支援内容を確認するとともに、役割を明確にした上で実施する。特に障がいのある学生への学修支援、留学生への健康管理支援などに対応する協力体制を確立する。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-2 【11】学生のキャリア形成や就職活動を支援するため、全学共通教育で開講しているキャリア形成科目やインターンシップ科目の受講者に対してアンケート調査を行い、その結果に基づいて授業を改善する。	[2]	中期計画を実施している	
小項目1-3-2 勉学の奨励やグローバル人材を育成するための奨学金制度等を充実させる。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1(◆) 【12】支援学生の増大につなげるため、応接奨学生制度、学生の短期海外研修制度に対する支援額を令和3年度までに平成27年度比で20%以上拡充する。	[2]	中期計画を実施している	
小項目1-3-3 学部を超えた交流の場として、アカデミック・コモンズを充実し、積極的に活用できる環境を整備する。	[3]	進捗してい る	2.00
中期計画1-3-3-1 【13】学部を超えた学生の主体的な交流の場としてのアカデミック・コモンズの利用を促進するため、アカデミック・ラーニング・サポート(アカデミック・コモンズにおける主体的学修を促進するための組織)において、学修相談、履修相談、自主ゼミ等の活動を支援できる体制を確立するとともに、その活動を担うスチューデント・アシスタント(SA)を年間5名以上育成する。	[2]	中期計画を実施している	
項目1-4 入学者選抜に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1 ミッションの再定義及び岐阜大学の国際化ポリシーとビジョンに基づいてアドミッション・ポリシーを見直し、入学者選抜の方法を改善する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1 【14】多面的・総合的な評価など入学者選抜の方法を改善するため、入学時関連情報と卒業・修了時関連情報を分析し、その結果に基づきアドミッション・ポリシーを平成29年度までに見直す。	[2]	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)			下位の市期日堙・
中期目標(中項目)	判定		下位の中期目標・中期計画における
中期目標(小項目)			各判定の平均値
中期計画 中期計画1-4-1-2			
【15】国際人として身に付けるべき英語によるコミュニケーション力や普遍的な多様性・異文化理解力等を涵養するため、各研究科での人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を定め、入学試験に語学検定試験を活用した学力評価を平成30年度までに導入する。	[2]	中期計画 を実施して いる	
小項目1-4-2		144 to 1 1 .	0.00
地域の教育の拠点としての役割を果たすため、入学者選抜の方法を改善する。	[3]	進捗してい る	2.00
中期計画1-4-2-1 【16】地域の教育の拠点としての役割を果たすため、岐阜県教育委員会等と連携して教育学部の入学者選抜に地域枠などを第3期中期目標期間中に導入する。	[2]	中期計画を実施している	
- ¹	[3]	順調に進んでいる	3.03 うち現況分析結果加算点 0.03
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.00
小項目2-1-1 岐阜大学の強みである生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野において独創的で先進的な学術研究を推進し、持続可能な社会の創生に貢献できる成果を社会に還元する。	[3]	進捗している	2.50
中期計画2-1-1-1 【17】糖鎖科学研究を基軸とし、比較腫瘍、人獣共通感染症、新規創薬などの医学・獣医学・薬学連携研究をはじめとする次世代生命科学研究を推進し、その研究成果を社会に還元する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画2-1-1-2 【18】環境科学、特に流域圏保全学分野において、森林・水資源及びこれらに関わる物質動態の管理方策を提案するための研究を推進し、自然環境と人間社会の持続性に資する情報を発信する。また、岐阜県との連携により流域圏保全や防災に関する研究を推進し、研究成果を社会に還元する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-3 【19】再生可能エネルギーも含めた効率的な長期保存を視野に入れたエネルギー貯蔵技術及び安定的活用を発展させる次世代エネルギー研究を推進し、その成果を社会に還元する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画2-1-1-4 【20】複合材料など新素材と次世代金型の研究を推進し、その成果を社会に還元する。	[2]	中期計画を実施している	
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1 生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における研究を推進するために研究拠点を設置するとともに、拠点に対する学内の支援体制を整備する。	[3]	進捗している	2.25
中期計画2-2-1-1(◆) 【21】糖鎖科学研究を基軸とし、比較腫瘍、人獣共通感染症、新規創薬などの医学・獣医学・薬学連携研究をはじめとする次世代生命科学研究を推進するため、研究拠点を平成29年度までに設置する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画2-2-1-2(◆) 【22】森林・農地、水環境、流域情報を俯瞰する流域圏保全学を学際的研究分野とする全国的な研究拠点として強化する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-3 【23】複合材料など新素材の研究と次世代金型の研究を行うものづくり拠点として、次世代金型技術研究センターを 平成28年度に設置する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-4 【24】各研究拠点における研究推進体制を強化するため、研究推進支援人材を研究推進・社会連携機構に配置する。	[2]	中期計画を実施している	

期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期計画	. #	川定	下位の中期目標 中期計画における 各判定の平均値
小項目2-2-2 教育の基盤となる質の高い研究を着実に進展させるため、全学的な研究支援体制を整備する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1(◆) 【25】大学全体の研究レベルを上げるため、IR分析を踏まえ、リサーチ・アドミニストレーター(URA)による個々の教員に適した支援や助言を含め全学的な研究支援を行うことにより、学術論文公表数を令和3年度までに平成27年度比で5%以上向上させる。	[2]	中期計画を実施している	
 類目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	[3]	順調に進んでいる	3.25
	なし	_	_
小項目3-1-1 「地域にとけこむ大学」として、地域を志向した教育・研究を全学的に実践し、地域と協働して地域志向人材を育成する。	[3]	進捗している	2.50
中期計画3-1-1-1(◆) 【26】「次世代地域リーダー育成プログラム」を実践し、地域を知り、地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動する「地域リテラシー」を習得した「地域志向人材」を平成29年度以降、毎年20名以上、社会に送り出す。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-2 【27】地域の課題発掘及び地域の課題解決に取り組むため、多様な人々が集う「場」としてのフューチャーセンターの運用等を行う。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-3 【28】地域の課題解決に取り組むため、地域ニーズを踏まえた学際的研究など地域志向研究活動を推進する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-4 【29】「地」×「知」の拠点として継続的・発展的に事業が推進できる体制を構築するため、地域協学センター専任教員を複数名配置するなど学内資源の再配分を行う。	[2]	中期計画を実施している	
小項目3-1-2 地域と大学が連携して大学の資源を活用することで、地域社会が抱える超高齢社会等の課題解決に貢献する。	[3]	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1(◆) 【30】地域コミュニティの再生や地域産業の活性化、人口流出抑制・地元定着率向上に向けた地域活性化・振興策についての教育・研究を実施する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画3-1-2-2(★) 【31】広く地域の要請と期待に応え、地域が抱える諸問題に適確に対応するため、『岐阜大学地域戦略ビジョン(仮称)』を平成28年度に策定し、実行する。	[2]	中期計画を実施している	
小項目3-1-3 岐阜県と連携し、地域課題に密着した実践的な教育研究を行うことにより地域社会に貢献する。	[4]	優れた実 績を上げ ている	3.00
中期計画3-1-3-1 【32】岐阜県中央家畜保健衛生所と協働して産業動物の衛生学を中心とした実践的獣医学教育プログラム(産業動物衛生管理総合教育)を実施する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画3-1-3-2(★) 【33】清流の国ぎふ防災・減災センターと協働して岐阜県に特有の自然災害に関する防災・減災のための調査研究並びに地域における防災リーダー育成事業を実施する。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)	半	定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値
小項目3-1-4 産官学連携の推進により、地域産業界の発展に貢献する。	[3]	進捗してい る	2.33
中期計画3-1-4-1 【34】産学連携に関する広報活動等の拡充を通じて共同研究を推進し、第3期中期目標期間中の共同研究契約総額を第2期中期目標期間の総額比で15%以上増加させる。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-4-2 【35】地域産業界のニーズに応える研究活動を推進するとともに、研究成果の権利化を進め、第3期中期目標期間中の特許出願件数を第2期中期目標期間の件数比で10%以上増加させる。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画3-1-4-3 【36】自治体及び金融機関と連携し、地域の特徴を活かしたプロジェクトを創出するなど、地域産業の振興を支援する。	[2]	中期計画を実施している	
大項目4 その他の目標	[4]	計画以上の進捗状況にある	4.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標	[4]	計画以上 の進捗状 況にある	4.00
小項目4-1-1 「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」に基づき、国際化につながる施策を推進するとともに、その成果を地域に還元し、地域社会のグローカル化に貢献する。	[4]	優れた実 績を上げ ている	2.50
中期計画4-1-1-1(◆) 【37】大学の国際化を推進するため、複数の協定大学への海外共同実験室の設置・活用やダブルディグリー・プログラムを推進するとともに、平成31年度を目途にジョイントディグリー・プログラムを整備し実施する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-2 【38】海外高等教育機関との連携ネットワークの強化、インターンシップの推進、教育研究活動への適切な参画モデルの策定等により、外国人留学生の修学・就職支援を強化する。	[3]	中期計画 を実施し、 優れた実 績を上げ ている	
中期計画4-1-1-3(◆)(*) 【39】日本人学生の短期海外研修制度の活用や海外留学モデルの構築等により、日本人学生の海外留学生数及び派遣学生数を第3期中期目標期間中に延べ500名以上にする。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-4 【40】教員の海外研修及び海外留学を推進するとともに、事務職員を対象とした海外実務研修制度を整備する。	[2]	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-5 【41】地域企業のグローカル化に関するニーズ等を踏まえ、本学の国際化活動に関してIR分析を行い、地域社会のグローカル化支援に活用する。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-6 【42】応用生物科学研究科及び工学研究科における秋入学を活用した英語による教育コースの点検・改善及び地域科学部における国際教養コースの設置等により、日本人・留学生の混在型教育を実施する。	[2]	中期計画 を実施して いる	

	中期目標(大項目)	- 判定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値
	中期目標(中項目)		
	中期目標(小項目)		
	中期計画		
\%	中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のPはN		

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (★): 「面性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (★): 京部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*): 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画
- ※「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、 中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価 現況分析:「教育」 当該法人における (I 教育活動の状況)、 当該法人における 大項目「教育に関する目標」 × 係数 0.5 (Ⅱ 教育成果の状況) の中項目の平均値 の全判定結果の平均値 【研究】 達成状況評価 現況分析:「研究」 当該法人における (I 研究活動の状況)、 (Ⅱ 研究成果の状況) 当該法人における 大項目「研究に関する目標」 注2 × 係数 0.5 の中項目の平均値 の全判定結果の平均値

- 注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。 注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。